

### 表紙のART

WEB



「古代魔象」金子富之（博士後期課程）

幼い頃から絵を描くことと、妖怪が大好きだった金子さん。妖怪は、湧き出る自身の感情を描き出すための媒体だといいます。表紙の作品「古代魔象」はネパールの妖怪。先祖返りしてしまった象という言い伝えをもとに金子さんの想像で描き上げたもの。昨秋、本学で開催された「Myth in us / 私たちの神話」山形展でも展示され、多種多様な反響を招いていました。今春で博士後期課程を終えますが、このまま山形にアトリエを構えて、妖怪をはじめとする日本画を描き続けていくそうです。

### 「g\*g」とは？

芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！ このデザインがカッコいい！ 景観がきれい！ こんな風在日常の中で感動できる人は立派な芸術市民です。そんな芸術市民のみならずと芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

### 東北芸術工科大学

◎芸術学部  
美術史・文化財保存修復学科  
歴史遺産学科  
美術科【総合美術／日本画／洋画／版画／彫刻／工芸（漆芸・陶芸・金工）／テキスタイル】

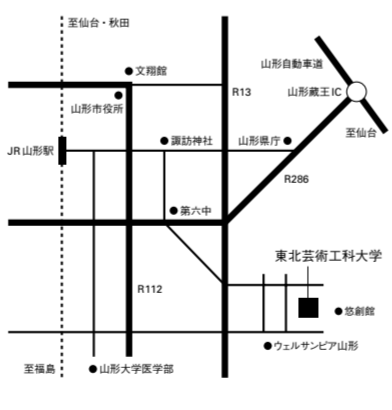
◎デザイン工学部  
企画構想学科  
プロダクトデザイン学科  
建築・環境デザイン学科  
グラフィックデザイン学科  
映像学科

◎大学院芸術工学研究科  
博士後期課程 芸術工学専攻  
修士課程【芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール】

◎研究機関  
総合研究センター／東北文化研究センター／文化財保存修復研究センター／こども芸術教育研究センター／デザイン哲学研究所／東アジア芸術文化研究所／社会芸術総合研究所

\*上記は2009年度の学科・コース構成です。

### ACCESS



### 東北芸術工科大学広報誌 g\*g

2009年1月10日発行  
発行：学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形市上桜田3-4-5  
東北芸術工科大学広報担当  
TEL：023-627-2246 FAX：023-627-2185  
WEB：www.tuad.ac.jp  
E-mail：hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design：Creative Room J1  
Printing：Tamiya Printing co.,Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2009



## TUAD IS HERE

日常の中の芸工大 WEB

限界集落の困難な日常を伝える、「山村スピーカー」という名の彫刻

昨年11月に開催した「I'm here. 2008 vol.2」に参加したアーティスト・グループ「実験跡地」は、ギャラリー内部を埋め尽くすくらい的大量の枯れ草を持ち込んだ。山のように積み上げられたススキや葦の隙間から頭上に眼を凝らすと、床面から3mの頂上に小さな「家」がちよこんと乗っている。この小屋は彼らが拠点にする大蔵村柳瀬集落にあった農作業小屋（前の冬に雪の重みで崩落した）を、その廃材を使って10分の1サイズに還元したもの。内部に仕込まれたスピーカーからは、村の古老による集落の昔語りや延々と流れる。住民の高齢化や農業の衰退により、限界集落化していく山形の中山間地域。主を失った家や小屋は豪雪や湿気によりすぐに倒壊し、その跡地には生命力豊かなススキや葦が繁茂する…。雪下るしや屋根の葺き替えなど、村仕事を手伝いながら「ここでアートにできること」を真摯に模索してきた彼らが作品化したのは“人々に地域の現状を伝えるための彫刻作品”だった。

そしてこの冬、I'm here. 2008はいよいよ最終章。1月19日から東京の表参道では「森の発生／森の腐敗」を開催する。招聘する3名の卒業生アーティストは、界隈のスノッな雰囲気と逆行するような野性的なラインナップ。中田朝乃さんは植物とニンゲンを融合させた人物画を、土ヶ端大介さんは一昨年の「アート・アワード・トーキョー」でやなぎみわ氏から選出されたストッキングを裂いて描く新作を発表。そして、昨年ソウルと山形で開催された「Myth in us」展に漆と毛皮で固めた狐銃を出品し、好評を博した古川紗帆さんが、熊の毛皮による大型の新作を発表する。どうぞお見逃しなく！

「I'm here. vol.3」東京展【森の発生／森の腐敗】  
中田朝乃＋土ヶ端大介＋古川紗帆  
会期：1月19日(月)～31日(土)  
会場：表参道画廊 渋谷区神宮前4-17-3  
アーク・アトリウムB02  
主催：東北芸術工科大学卒業生支援センター  
協賛：東北芸術工科大学校友会・卒業生後援会  
キュレーター：宮本武典（美術館大学構想室）  
WEB：http://www.tuad.ac.jp/museum/

**温泉街の活性化 | 山形県大蔵村**  
日本画、版画、テキスタイルコース/建築・環境デザイン学科  
山形県最上郡大蔵村の肘折温泉では、開湯1200年を迎えた2007年夏から、温泉文化と芸術活動の融合による“現代版・湯治”の創出を目指す「肘折まるごと美術館プロジェクト」に取り組んでいます。

**サステナブル10の提案 | 山形県最上町**  
建築・環境デザイン学科  
2008年、「環境問題に対して持続可能なシステムを持ちながら、経済的にも発展するまち＝サステナブルタウン」づくりの実現に向けて、積極的に取り組みを開始。第1例目として、最上町と調査・研究を進めています。

**津軽学 | 青森県津軽地方**  
東北文化研究センター  
2005年に創刊した、津軽地方の民俗・文化を掘り下げて紹介している冊子で、発行は津軽に学ぶ会。毎号、津軽地方の様々な場所やその土地にゆかりのある人物を中心に、地域の魅力を紹介します。

**文化財の保存処理 | 岩手県北上市**  
文化財保存修復研究センター  
北上市内の遺跡から出土された遺物の保存処理業務を実施。ここでは鎌や斧などの金属製品5点の保存処理前の調査、保存処理を行いました。北上市以外にも様々な地域からの文化財の処置をしています。

**黒マリア像の復元 | 山形県鶴岡市**  
文化財保存修復研究センター  
100年以上にわたって崇敬の祈りを受けてきた鶴岡カトリック教会の「黒い聖母」。随所に劣化がみられたこの像は、センターで修復され(2006～2008年4月)、万全の状態に協会に戻されました。

# 東北まるごとルネサンス!

建学理念「東北ルネサンス」の具現化に向けて、これまで行われた主なプロジェクトを一挙公開。

東北芸術工科大学は、東北の母なる大地と縄文以来の文化に根ざしながら、芸術とデザインによる、「東北の文化革新：東北ルネサンス」の具現化を目指しています。その中心運動として位置づけられるのが「東北ルネサンスプロジェクト」。シンポジウムやセミナー、仙台での「小説家×編集者講座」の開催、山形県大蔵村肘折温泉での「肘折まるごと美術館プロジェクト」や廃校を利用したプロジェクトなど、多様なスタイルの取り組みを実践しています。東北ルネサンスプロジェクトのほかにも、より広々としたフィールドで東北の大地を耕すために、そして、次代を支える地域のネットワークを構築していくために、各地で数多くの活動を展開。一般の方へ開放した講座や地域の活性化を目指す、これらひとつひとつが「東北ルネサンス」の確かな布石となることを信じて、大切に育てています。そんな、山形県を越えて東北各地へ広がる活動の一部をご紹介します。

**市庁舎の家具デザイン | 山形県寒河江市**  
プロダクトデザイン学科  
黒川紀章氏設計で有名な寒河江市役所から庁舎2階の市民ホールのリノベーション計画を依頼され、学生15名でデザインプランを提案。優秀案をもとに市民ホールの家具制作・空間リノベーションを実施しました。

**雪と氷の街づくり | 山形県西川町**  
建築・環境デザイン学科  
雪は北国ではやっかいものですが、それを使って建物を造ることに学科の研究室で挑戦。月山の志津温泉は6mを超える積雪に悩まされてきましたが、その雪を利用した街づくりワークショップを実施しました。

**モンテディオ山形プロジェクト | 山形県山形市**  
企画構想学科  
来期からJ1昇格が決定したプロサッカーチーム「モンテディオ山形」の試合運営サポート、広報活動への参画、意識調査の実施などを展開。スポーツを通じた地域デザイン、活性化を図っています。

**キャンドルスケープ | 山形県山形市**  
建築・環境デザイン学科  
ロウソクを灯しながら電気のない緩やかな時間を過ごし、私たちの生活スタイルやこれからの地球環境について考えるイベント「キャンドルスケープ」。文翔館前の会場を、学生が中心に運営しています。

**ヤマガタ蔵プロジェクト | 山形県山形市**  
プロダクトデザイン学科/建築・環境デザイン学科  
山形市に残る蔵を新しい視点で捉え直し、再生して町の活性化につなげようという試みで、学生の研究活動をきっかけに2003年に始まりました。学生を中心に、山形の市街地の人々とともに運営しています。

**花笠まつりへの参加 | 山形県山形市**  
全学科・コース  
毎年8月5日～7日に開催される「山形花笠まつり」。本学学生チームも毎年参加し、「やっしょ まかしょ」のかけ声とともに、芸工大ならではの芸術性の高いエネルギーな踊り「桜風吹(さくらかぜ)」を舞います。

**廃校プロジェクト | 山形県朝日町ほか**  
全学科・コース  
過疎化などで廃校になった小学校を中心に、芸術活動を通じて地域の活性化を目指すプロジェクト。山形県内の数カ所に活動の拠点となる「工房村」をつくり、本学と結んだネットワークの構築を目指しています。



**蔵プロジェクト in 増田 | 秋田県横手市**  
プロダクトデザイン学科/建築・環境デザイン学科  
これまで山形市街地を中心に活動してきた蔵プロジェクトが、横手市増田町で開かれた「蔵の日」に参加。通りの中心部に残る旧勇駒酒造の33mに及ぶ巨大な蔵で、光のイベントを開催しました。

**盛岡学 | 岩手県盛岡市**  
東北文化研究センター  
盛岡市周辺の民俗・文化を掘り下げて紹介している冊子で、発行は盛岡学編集室。盛岡の様々な場所やゆかりのある人物を中心に、地域の魅力を紹介します。最新号の第2号では、食の記憶と題した特集を掲載しています。

**世界遺産登録への取組み | 岩手県平泉市**  
歴史遺産学科/東北文化研究センター  
平安時代に発展した平泉には、国宝の「中尊寺金色堂」や特別名勝「毛越寺庭園」など奥州藤原氏によって築かれた遺跡や景観、文化が残り、それらを世界遺産に登録する取り組みを教員もサポートしています。

**仙台学 | 宮城県仙台市**  
東北文化研究センター  
仙台市周辺の民俗・文化を掘り下げて紹介している冊子で、発行は別冊東北学編集室。仙台の様々な場所やゆかりのある人物を中心に、地域魅力を紹介します。ほか、地元高校生が執筆した小説なども掲載しています。

**小説家・ライター講座の開催 | 宮城県仙台市**  
東北文化研究センター  
山形と仙台を拠点に始動した東北ルネサンスプロジェクトのひとつ。第一線で活躍する作家をゲスト講師に、コーディネーターの池上冬樹氏とともに小説の書き方を解説します。他に編集者講座と赤坂憲雄対談も開催。

**メディアコンテンツ産業の振興 | 宮城県仙台市**  
大学院仙台スクール  
実践経験豊富なコンテンツ産業の牽引者を教授陣として迎え、コンテンツプロデュース、ビジネスプロデュースの両分野から実践的な教育を展開し、日本のコンテンツ産業をリードする人材を育成しています。

**会津学 | 福島県会津若松市**  
東北文化研究センター  
会津地方の民俗・文化を掘り下げて紹介している冊子で、発行は会津学研究会。会津の様々な場所やゆかりのある人物を中心に、地域の魅力を紹介します。最新号の第4号では、山に生きると題した特集を掲載しています。

**日本酒のブランディング | 福島県相馬市**  
企画構想学科/大学院仙台スクール  
相馬商工会議所との連携で、地域活性化計画として日本酒「夢そうま」ブランドの企画開発を協力。昨年11月に第一弾「初しほり」がお目見え。今後さらに、4種のラベルデザインと広報戦略を企画する予定です。

**会津地方の工芸品のPR | 福島県会津若松市**  
東北文化研究センター  
赤坂憲雄センター長のドゥマゴ文学賞受賞をきっかけに始まったプロジェクト。BunkamuraのHPを中心に、会津本郷焼や漆器など優れた工芸品を紹介しています。その中のひとつ、樹ノ音工房は本学卒業生が営む窯元です。

**東北文化研究センター**  
本学の建学理念を、「東北学」の研究という具体的な活動で支え、東北から「新しい日本文化像」を創り出すことをひとつの目的としています。広く地域に開かれた情報センターであるとともに、学生の参加に支えられた研究機関で、水上能舞台「伝統館」は新能などの講演で活用するほか、学生の創作活動の発表の場としても開放しています。

**産学連携事業**  
ここで紹介した地域との活動のほかにも、総合研究センターが窓口となり、山形県内の酒造メーカーや銀行のほか、様々な地方自治体や企業とも積極的に産学連携や受託デザインを実施しています。また、本田技術研究所やキャンソ、東海理化学工業など大手企業の方を講師に招き、学生に対してデザインワークショップや特別授業なども開催しています。

**東北ルネサンス会議2008を開催しました。**  
去る11月22日に「東北ルネサンス会議2008―芸術・平和・人類」を本学で開催しました。写真家の大石芳野さん、映画監督の松浦雅子さん、アートディレクターの北川フラムさんら異分野の第一線で活躍するパネリストと本学大学院の赤坂憲雄院長が「いま、芸術は何をなそうるか」をテーマに芸術の役割や東北の魅力などについて意見を交わしました。「東北は縄文につながる。人間が生きていく原点が多く残っている」と東北ルネサンスに賛同する声もあれば、「縄文へのこだわりだけでなく、新しい視点も必要」といった意見も出され、終盤になって議論は白熱。続きを期待したくなる展開となりました。なお、会議前には俳優の林隆三さんによる宮沢賢治童話の朗読が行われ、会場は熱い感動につつまれました。 WEB

# 海を越えたアート交流、ソウルから山形へ、私たちの神話は続く。

昨年6月、ソウル市のトータル美術館で開催した「Myth in us / 私たちの神話」展の山形展を、同年10月23日から11月12日にわたって本学7階ギャラリーや Studio144 など、3会場で開催しました。

本学と梨花女子大学校（韓国 / ソウル）との間で日韓学生交流展を企画し、2008年6月のソウル展に続いて、秋には山形展を開催しました。日本と韓国でアートを学ぶ若者たちが、それぞれ山形とソウルに滞在し、「私たちの神話」というテーマで作品制作・発表をいたしました。山形展には梨花女子大から19名の学生が来日。ソウル展以来、4ヶ月ぶりの再会を果たした学生たちは、懐かしい展覧会の設営の際にも、息の合ったところを見せていました。オープン前日、梨花女子大のセオ・ジェジュンさんと本学大学院芸術文化専攻の古

川紗帆さんが再会を喜び合ったのは、トータル美術館と本学の入り口を描いたセオさんの作品「Secret Path」の前。山形の印象を古川さんが尋ねると、「写真を見ながらこの作品（芸工大の建物）を描いたので、山が近くにあるというはわかっていました。でも、実際に来てみると、本当に山が学校を抱きしめているように見えてとても素敵だと感じました」と大学の環境をセオさんは称賛。さらに、山形を訪れたのは初めてなのに、とても懐かしいような気がするとも話してくれました。一方、古川さんはソウル展でも展示した「The rifle

of the deer」（写真中央）に加えて同じ漆と毛皮を組み合わせた新作を発表。ソウルで受けた歓迎ムードが記憶に新しく、今度は梨花女子大生を歓迎する立場であることを強く意識しているようでした。山形を楽しんでと明るく声を掛けながらも、「ソウル展の時は次の山形展があるからと明るく別れられたけど、今回の別れは寂しい」と古川さんとセオさんはやや感傷的に。こうした出会いや別れも、学生たちにとっては大きな財産になったはず。それは個々の芸術表現として、これから昇華されていくことでしょう。

## 芸工大生 \* 梨花女子大生



セオ・ジェジュンさんの作品「Secret Path」の前で。「建物の入り口は秘密へと通じる特別な場所として捉えています」とセオさん。左が芸工大、右がソウルのトータル美術館。

WEB

PICK UP



セオ・ジェジュン Seo, Jae Jung  
梨花女子大学校造形芸術学科

古川紗帆 Furukawa Saho  
本学修士課程芸術文化専攻

### 海外の大学との協定

東北芸術工科大学では大学教育の発展と芸術文化運動を促進するため、スウェーデンのコンストファックやデンマークの王立アカデミーのほか、韓国唯一の国立芸術大学である「韓国芸術総合学校」や、「延世大学校」、「韓国伝統文化学校」とも大学間交流協定を結んでいます。今後、「梨花女子大学校」とも交流協定を締結する予定です。



### 地元高校との教育交流

本学は、教育交流を通して地元高校との関係をより深めると同時に、大学の持つ教育環境をより若い人たちに提供するため、山形県立山形工業高等学校や、山形県立長井工業高等学校と教育交流協定を締結し、「高大連携」を強く進めています。さらに、大学教員による全国の高校への出張授業やワークショップも希望に応じて開催しています。



堤大橋 Tsutsumi Daigo  
山形県出身。工芸コース金工専攻の8期生。修士課程芸術文化専攻修了。千葉県のカンパニー関係の企業に3年間勤務後、帰郷。金子准教授の誘いを受けて現在に至る。

金子透 Kaneko Toru  
東京都出身。美術科工芸コース准教授。1988年東京芸術大学大学院美術研究科彫金専攻修了。伝統的な金属加工技術をもとに制作活動を展開。

難しいけど、楽しいっすね。

コミュニケーション力を磨けば、もっといいジュエリーが作れるようになるよ。

## 芸工大OB \* 教授

### 教授とOBがジュエリーショップをオープン。

工芸コースで金属工芸を教える金子准教授と卒業生2人がアートジュエリーの工房と展示販売スペースを兼ねた「スタジオオミス」をオープンさせました。



「ちょっと普通とは違うジュエリー」がテーマのゴージャス感とボリューム感のある、金子准教授の作品。穴あき金リング ¥80,000



アートジュエリー「スタジオオミス」住所：山形市本町2-3-18 1F TEL：023-625-7616 営業時間：13:00-19:00 定休日：月・木曜日

七日町商店街（山形市）の一帯東側の通りに、本学の教授とOBが共同で経営するアトリエ兼ショップという楽しいジュエリーショップ「スタジオオミス」がオープンしました。このスタジオは、「大学で学んだ金工が活かせる就職先が山形には限られていたり、作家としての自立も難しかったり、東京でも定着しはじめていないもの、山形ではまだまだ浸透していないアートジュエリー。山形市の中心部で工房を開いたのには、広く市民にアートジュエリーや大学の存在をアピールするとともに、現役学生にも刺激を与えたいという狙いもあったようです。折よく、「3年間の会社勤めで学んだことを活かして、もっとおもしろいことがしたい」とジュエリー関係の会社を退社し帰郷していたOBの堤さんに金子准教授が声掛けし、同じく山辺町作谷沢のアトリエで作家活動をしている下山善行さんと3人で「スタジオ

オミス」を立ち上げることに。「エンゲージリングに代表されるように、ジュエリーは単なるアクセサリーではなく、人と人をつなぎ、人間としての変化にも影響を与える精神的な高いもの。だから、オリジナルで作ってもらうことの満足感や自分で作ることの楽しさを伝えたい」と金子准教授。対して「人と話をしてジュエリーをイメージしていく、思いをかたちにしていくのは楽しいです」と静かに応える堤さん。ビジネスパートナーとはいつでも恩師と教え子、大学時代の話になると堤さんは少々耳が痛い様子。「1、2年次はあまり熱心な学生とはいえなかったな。手先は器用だったけど」と手厳しい。しかし3年次から俄然個性を現し、徐々にアートジュエリーに魅せられた堤さんは大学院へ進学し、さらに力を磨きました。堤さんに限らず、卒業生のその後を心配して止まらぬ金子准教授。いずれはこの「スタジオオミス」を拡大し、卒業生の受け皿のひとつにできればと展望しています。恩師とOBが創り出すアートジュエリーと、新たなビジネスモデル、今後の展開に注目です。



山辺町作谷沢にもアトリエを持つ下山善行さんの七宝のペンダント。色違いあり、ブローチもあります。七宝のペンダント ¥14,000



堤さん作のマリッジリング。シルバーや18金、プラチナの中から素材は自由に選べます。マリッジリング・ペア ¥25,000～

### 美術科工芸コース

人類の歴史とともに常に身近にあり、文化を育み、生活を支えてきたのが工芸です。太古の昔から日本人になじみが深い「漆芸」、武器やジュエリーとして紀元前から人と関わってきた「金工」、土と対峙することで生み出されてきた「陶芸」など、ここでは、私たちの生活や社会を豊かにし、かつ美しさを備えたものづくりを学んでいます。



### 美術科テキスタイルコース

コースのテーマは「生きられるものづくり」。織機や染め型を用いた伝統的な手法はもちろん、また畑で紅花や藍を育て染料を作るほか、ジャガード織やコンピュータなど新しい技術や手法を取り入れ、表現方法を高めていきます。工芸コースと連携し、漆や金属、陶芸といった様々な素材に触れられるのも特長のひとつです。



# TUAD NEWS 33

目で見える芸工大「できごと」セレクション

## 01

### 活動を広めるため、連携希望者求む 「東北のサステイナブルタウンのための10の提言」発表

建築・環境デザイン学科では、「広く地球規模の環境問題に対して持続可能なシステムを持ちながら、経済的にも発展するまち＝サステイナブルタウン」づくりを、地域とともに考え、実現に向けて積極的に取り組んでいける体制を組みました。そして、誰にでも分かりやすくサステイナブルタウンに向けての計画を立てられるように、10枚のカードを制作し、記者発表を行いました。将来の私たちやその子孫の暮らしのために、東北のほかの地域でも活動を広く展開したいと考えており、連携のお申し出を随時広く募集しています。なお、カードは無料でご希望者へお送りしております。



## 02

### 不動産の新しい価値を提案する 山形 R 不動産リミテッド プロジェクト始動

建築・環境デザイン学科は、2009年1月より「山形R不動産リミテッド」プロジェクトをスタートします。「R不動産」とは、新しい視点で不動産物件の価値を発見・提案していくプロジェクトで、これまでにないタイプの不動産メディアとして、東京や福岡、そのほかの都市で展開しているもの。「山形R不動産リミテッド」は山形市独自の目的での事業展開を目指します。その目的は、(1)中心市街地の空洞化が進む街中再生と、(2)同学科で学ぶ「リノベーション」の提案。リノベーションとは、建物を書いて替えるのではなく、その物件の魅力を提案し、改装したり、違った用途として再生させることです。現在、第一段として取り組む計画の物件の調査、空き物件の募集などを行っています。



## 03

### 温泉文化とアートの融合を目指して展開 「肘折まるごと美術館プロジェクト」

肘折温泉(最上郡大蔵村)で、湯治場の逗留スタイルを活かした3つのアートイベントを2008年10月1日～12月7日に開催。「現代版湯治」「現代表演治」の創出を目指し、旧郵便局舎「ギャラリーひじおりの灯」を活用して、番場三雄美術科准教授の素描展のほか、ワークショップ、工芸コース卒業生の竹田佳代さんと大学院日本画領域の広瀬直子さんによる作品展などを行いました。WEB:http://hijiori.jp/

## 07

### 本学学生も様々なカタチで参加・協力 ボーダレスアート展 in 山形

2008年11月22日～27日、障害のある作家や作品を、国内外に送り出している「ボーダレスアートミュージアム NO-MA」が、山形で広く一般公募した作品とともに、山形の文翔館で作品展を開催。本学からも、アートディレクターとして大学院2年の藤本えりさんが参加しているほか、数名の学生が出品しました。アートディレクター:藤本えりか(大学院工芸領域2年) 出品:阿部翔子/千葉真利(洋画コース3年)/高田和成(情報デザイン学科1年) フライヤーデザイン:窪田梨絵(情報デザイン学科3年)

## 11

### 漆芸専攻院生の作品が高い評価を受け、2008伊丹国際クラフト展に入選

大学院芸術文化専攻工芸領域1年で、漆芸を専攻している小野寺奈南さんの作品「酒器・酒盃台」が2008伊丹国際クラフト展で入選。2008年10月31日～12月7日に、伊丹市立工芸センターB1Fで展示されました。また、巡回展として1月17日(土)～31日(土)に世田谷文化生活情報センターでも展示されます。



### 新たな芸術空間としての展開に注目。 和室ギャラリー「サロンマイマイ」オープン

プロダクトデザイン学科4年の佐藤葵さんが運営する雑貨店「ベチカ」の2階に、和室ギャラリー「サロンマイマイ」がオープンしました。開館記念として、美術科洋画コース4年の福田浩子さんと、3年の野瀬昌樹さんによる銅版画展を、9月29日～10月13日に開催しました。WEB:http://blogs.yahoo.co.jp/pehaidias1657/

## 04

### 「ブタがいた教室」 話題の前田哲監督トークショー

映像学科の准教授に就任予定の前田哲監督作品「ブタがいた教室」が、第21回東京国際映画祭2008で観客賞と審査員賞の2賞を受賞したことを記念して、2008年11月8日に前田哲監督のトークショーを開催しました。映画ファンなど100名の方にお越しいただき、会場とのフットワークなども交えて映画製作の醍醐味について話しました。

## 08

### ジブリ高畑勲映画監督と映画を語り合った 公開講座「映像にとってリアルとは何か？」

山形では特に「おもひでぼろぼろ」でお馴染みの、スタジオジブリ高畑勲映画監督による公開講座を、2008年11月26日に本学で開催しました。「映像にとってリアルとは何か？」をテーマに、赤坂憲雄教授などとともにクロストークを展開。会場の207講義室には、立ち見が出るほど沢山の方に越えいただきました。

## 12

### 大学院彫刻専攻修了生の松岡圭介さんの作品「a elephant man」が、群馬青年ビエンナーレ2008で優秀賞を受賞。2008年9月13日～11月3日、群馬県立近代美術館で展示されました。



大学院芸術文化彫刻修了生の松岡圭介さんの作品「a elephant man」が、群馬青年ビエンナーレ2008で優秀賞を受賞。2008年9月13日～11月3日、群馬県立近代美術館で展示されました。

## 09

### より学びを深め、高めた研究成果を公開 大学院博士学位審査公開レビュー開催

本学では初めてとなる、大学院博士課程の学位審査を兼ねた研究・作品の発表を行うレビューを、2008年12月15日～19日に行内ギャラリーと悠創館で開催しました。研究を発表を行ったのは、小関信子さん、酒井聡さん、高橋誠さん、金子富之さんの4名。

## 10

### 第4回東山魁夷記念 日経日本画大賞で栄えある大賞と入選果たした教授陣

岡村桂三郎美術科教授の作品「獅子 08-1」第4回東山魁夷記念 日経日本画大賞で大賞を受賞しました。また、長沢明美術科准教授の作品「イエローエッジ」も入選。2008年11月1日～12月14日、二子京東区美術館で受賞展が開催されました。

## 13

### 建築・環境デザイン学科の学生がお寺のサインデザイン

建築・環境デザイン学科山畑准教授が、平清水の平泉寺から境内サイン計画のデザインを依頼され、第一段として2基が完成しました。4年生の松山浩之さんと、本間和樹さんがデザインを担当し、文字を切り抜いたコルテン鋼の内側に、木材を差し込む境内に馴染む上品なデザインで、木材は季節やイベントに応じて交換が可能。順次設置数を増やす予定です。

## 05

### 新人賞展も期待、大学院彫刻専攻の奥村さんが自由美術展でダブル受賞

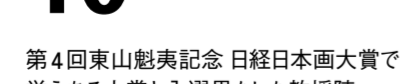
大学院芸術文化彫刻領域1年の奥村拓郎さんの作品「内奥から感じる表情'07」が、第72回自由美術展で、新人賞、佳作賞を同時受賞。2008年10月1日～13日、国立新美術館で展示されました。自由美術展は団体公募展で、2009年5月に東京銀座の画廊で平面と立体の新人賞展が行われます。



## 06

### 日本画、洋画、そって受賞・入選の喜びが シェル美術賞に入選

日本画コース2年の中山威仁さんの審査員奨励賞に加え、美術科洋画コース4年の佐藤未希さんの作品「cellar」が、シェル美術賞2008に入選。2008年11月12日～24日に東京 展が、1月6日～11日に京都展が開催されました。



## 14

### 第48回日本クラフト展で奨励賞を受賞

大学院芸術工学研究科工芸修了生の斎藤寛達さんの漆の作品「乾漆布目湯たんぽ」が、第48回日本クラフト展で奨励賞を受賞。2009年1月4日(日)～13日(火)に丸ビル7階丸ビルホールで受賞作品展が開催されます。

## 15

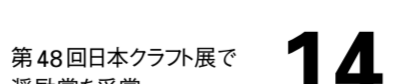
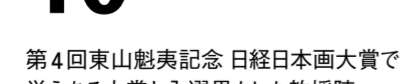
### 将来が楽しみな若き才能を支援、国際滝富士美術賞奨学生に決定

美術科日本画コース4年の永田泰子さんが、岡村桂三郎美術科教授推薦のもと、国際滝富士美術賞第29期奨学生に決定しました。同賞は将来が嘱望される若手芸術家を育成するため、日本および海外の美術系大学の学生を対象に奨学金を給付するものです。授賞式は2008年11月6日に開かれました。

## 18

### 企業に学び、ともに創り出した集大成 ホンダ産学共創プロジェクト成果発表会

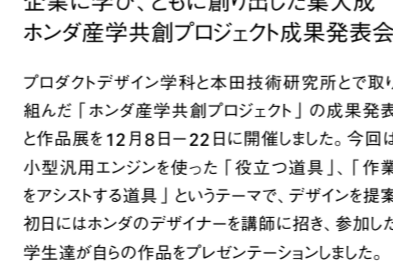
プロダクトデザイン学科と本田技術研究所とで取り組んだ「ホンダ産学共創プロジェクト」の成果発表会が、初出場で会友賞を受賞しました。一線美術協会は、美術の価値を流布や具象、抽象などにとらわれず、純粋な芸術として創造的な発見を尊重する公募展。



## 17

### 初出品での受賞で今後さらなる活躍を 一線美術会展

第59回一線美術会展で、美術科2年の小林あゆみさんが、初出品で会友賞を受賞しました。一線美術協会は、美術の価値を流布や具象、抽象などにとらわれず、純粋な芸術として創造的な発見を尊重する公募展。



## 19

### 高校生たちの豊かな想像力に感動した 全国高等学校デザイン選手権大会 決勝大会

10月26日に一次審査を通過した高校生12チームが全国から本学へ集まり、決勝大会に出演。提案の内容を7分間でプレゼンテーションを行いました。文部科学大臣賞(優勝)は、九州産業大学付属九州高等学校(福岡県)の提案「話し合いで解決しよう。」が選ばれました。また今後、アイデアの実現に向けて具体的な検討に移る提案も出るなど、今回も想像力豊かな高校生たちで、会場は魅了されました。前号でお伝えした東根工業高等学校の提案「あ・る・く」は惜しくも文部科学大臣賞の受賞は逃しましたが、上位12チーム入賞となりました。



## 21

### 人と環境にやさしいアイデア募集中！ デザイン哲学研究所主催アイデアコンペ

デザイン哲学研究所では、東北圏の学生を対象に、人と環境に優しい生活「サステイナブルライフスタイル」というテーマで幅広いアイデアを募集する「サステイナブルデザインアイデアコンペ」を開催しています。最優秀作品1点には、賞状のほか、賞金10万円が贈られます。応募期間は1月31日(土)まで。詳しくは大学HPをご覧ください。 協賛:株式会社山形銀行/株式会社ア・ファクトリー/株式会社さんでん 後援:山形経済同友会



## 22

### 地域交流のための展示 「よってけらっしい みてけらっしい みつけたむぎの 道の駅」

現代GP芸術工房ネットワークの一環で、天童市田妻野地区の人々との交流を通じて、創作を進めてきた学生たちによる展示「よってけらっしい みてけらっしい みつけたむぎの 道の駅」を、11月16日～23日に開催しました。参加学生:青木亮太/新垣美沙季/石沢恵理/大泉琢/岸田奈津希/黒石雅世/斎藤瑛理奈/佐々木ありす/山田美樹/結城ななせ/吉田祐子/藤野沙紀/田中里美(順不同) (この活動は、平成20年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの一環として行われます。)

## 23

### BankART Life II ルーフトップ・パラダイス 学生と准教授がコラボ作品出演

9月13日～11月30日に開催された横浜1エンナーレ2008の期間中、横浜市のBankART 1929で開催されたプログラム「BankART Life II」のひとつ「ルーフトップ・パラダイス」に、プロダクトデザイン学科3年生の在学生と西澤准教授が制作した仮設パビリオン作品を出展しました。作品はビニール製の大きな風船を組み合わせて制作した空間と、直径約1mのプラスチック製の皿を組み合わせて制作した空間の2点。

## 25

### ローカル拠点のデザインののお披露目 デザインのシュウカクサイ開催

LANDSCAPE PRODUCTSやgraf、卒業生によるデザインユニットFstyleなどをお招きし、地域性(ローカリティ)と地球全体(グローバルティ)を合わせた造語「ローカル」をテーマに、大都市ではなく、あえてローカルな場所を拠点に活動するデザイナーたちで、「土地に根ざしたデザイン」を考えるトークイベント「デザインのシュウカクサイ」を2008年11月15日に開催しました。また併せて参加者たちが手がけた作品展も開催しました。

## 26

### 聖夜を彩った卒業生のアートワーク さくら野百貨店クリスマス販促ツール

2007年度、現・メディアコンテンツデザイン学科の卒業生・高橋麻衣子さんの企画・提案で、美術科洋画コースの卒業生・加藤晶子さんのアートワークが、2008年のさくら野百貨店全店のクリスマスツールビジュアルとして採用。「卒業生が力を合わせて、地域密着型の百貨店をアートフルに変革したい」と高橋さんからコメントをいただきました。 媒体:さくら野百貨店クリスマス販促ツール(ポスター、ショッピングバッグ、ポストカード他) 期間:2008年11月4日～12月25日

## 24

### OG作品と卒制作品のダブル受賞 MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2008

生産デザイン学科2007年度卒業生の若根千鶴さんの作品「優しいモノのRe:Design」がMITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2008で都築響一賞(審査員賞)を受賞しました。また、黒沼宏美さんの卒業制作品「立体風の造形研究」が佳作に入賞。2008年11月6日～9日に東京国際フォーラムにて受賞作品展が開催されました。 WEB:http://www.m-kagaku.co.jp

## 27

### 漆の魅力伝える受賞展も開催 「国際漆展・石川2009」奨励賞受賞

大学院修士工芸領域1年の小野寺奈南さんの漆の作品「&U」が、国際漆展・石川2009で奨励賞を受賞しました。受賞展として「国際漆展・石川2009」が、1月21日(水)～26日(月)、石川県金沢市のめいてつエムザ8階催事場で、2月26日(木)～3月22日(日)、石川県輪島漆芸美術館で開催されます。

## 28

### 優秀賞・入賞者続出で存在感アピール 第4回山本鼎版画大賞展

第4回山本鼎版画大賞展で美術科洋画コース3年の佐藤妙子さんが優秀賞を受賞、在学生、卒業生が9名が入選。この賞は、版面の独自性、芸術性を柱に新人の意欲的な発表の場としても開かれるトリエンナーレ(3年に1回)方式の版画コンクールで、広く応募があります。受賞作品は、長野県の上田創造館文化ホールで展示されました。 優秀賞:野瀬昌樹(洋画コース3年) 入選:佐藤妙子(卒業生)/須藤光和(大学院2年)/佐藤賢奈子(大学院1年)/李英圭/福田浩子(洋画コース4年)/今野智代/杉原昭子(洋画コース3年)/板橋芳理/西村沙由里(洋画コース2年)

## 29

### 第14回学生CGコンテストに入賞

第14回学生CGコンテストで、大学院ビジュアルコミュニケーションデザイン1年の粟田朋子さんの作品「はじまりはまつ毛の先から」が、動画部門で佳作に入賞。また映像コース3年の中川友秀さんの作品「七つの冠」が、静止画部門の最終ノミネート作品となりました。受賞作品展は文化庁メディア芸術祭と同時間で開催されます。 会期:2009年2月4日(水)～15日(日) 会場:国立新美術館 WEB:http://www.cgarts.or.jp/scg/2008/

## 20

### 学生、院生、修了生、多彩に活動中。 2008 DesignTide+ 東京デザイナーズウィーク 100% futures

大学院生と修了生によるデザイナーズユニット「Link」が、今年も東京デザイナーズウィーク 2008 Design Tideに出展。イギリスで開催された「Tent London '08」での出展作品をはじめ、新作発表を CALM & PUNK GALLERYで行い、関係者の注目を集めました。また、東京デザイナーズウィーク2008 100% futuresの学生展と産学展へ、プロダクトデザイン学科の学生が出展しました。東北芸術工科大学の学生展のテーマは「燃れる」。約10名のプロダクトデザイン学科の学生が、テーマに合わせてデザインした作品を発表しました。 WEB:http://www.link-design.org/



## 31

### 生花の美しさを存分に引き出して 草月いけばな展で草月新人賞を受賞

大学院実験芸術2年のしょうじまさるさんが、2008年11月6日～11日に、日本橋高島屋で開催されていた第90回草月いけばな展「花笑み」にて草月新人賞を受賞しました。「教授、職員、後輩、先輩方々のご指導、ご声援のおかげです。有難うございました。今後ともご指導ご鞭撻を願ひ申し上げます。」とコメントをいただきました。

## 32

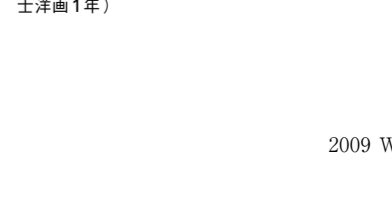
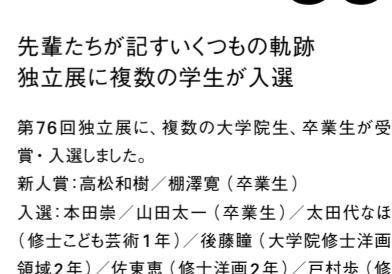
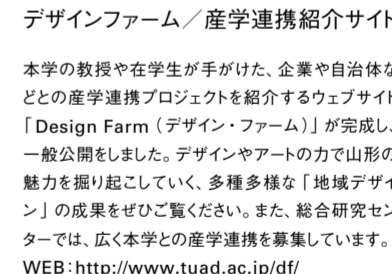
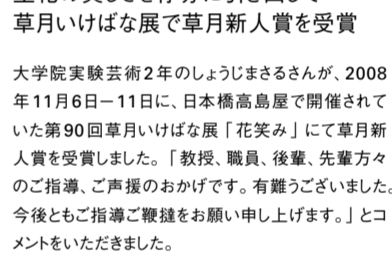
### デザインやアートによる地域貢献 デザインファーム/産学連携紹介サイト

本学の教授や在学生が手がけた、企業や自治体などとの産学連携プロジェクトを紹介するウェブサイト「Design Farm (デザイン・ファーム)」が完成し、一般公開をしました。デザインやアートの力で山形の魅力を掘り起こしていく、多種多様な「地域デザイン」の成果をぜひご覧ください。また、総合研究センターでは、広く本学との産学連携を募集しています。 WEB:http://www.tuad.ac.jp/df/

## 33

### 先輩たちが記すいくつもの軌跡 独立展に複数の学生が入選

第62回二紀展に、美術科洋画コースの複数の学生が受賞・入選しました。 一般の部奨励賞:小田志保(博士2年)/阿部一樹(2年・初出品) 入選:藤澤潤弘/斎藤直美/渡辺まり/武山信之(卒業生)/佐藤未希(4年・初出品)/石崎裕香(3年)/竹内玲子(1年・初出品)



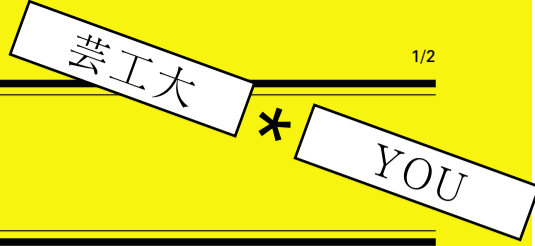
## 30

### ともに切磋琢磨し、ともに成果へ 二紀展に複数の学生が入選

第76回独立展に、複数の大学院生、卒業生が受賞・入選しました。 新人賞:高松和樹/棚澤寛(卒業生) 入選:本田崇/山田太一(卒業生)/太田代なほ(修士こども芸術1年)/後藤隆(大学院修士洋画領域2年)/佐東恵(修士洋画2年)/戸村歩(修士洋画1年)

## 33

2009 WINTER VOL.8



# OPEN GALLERY

## WELCOME TO TUAD

### 東北芸術工科大学 卒業／修了研究・制作展

2009.2.11 [wed] - 2.15 [sun] 東北芸術工科大学キャンパス+悠創館

2月11日から5日間、大学キャンパスと悠創館を舞台に卒業生・修了生たちによる最終プレゼンテーションが繰り広げられます。ここでは、その日に向けてモチベーションを高めている2人の学生をクローズアップ。制作現場を訪ねて卒展に懸ける思いに迫りました。



左／制作中の作品を眺めながら、次なる作品のイメージを膨らませる横山さん。右／4年次の卒展で制作した「いつかみた絵から」。

#### 「ジュエリーを封印し、大きい作品で6年間を総括します」

横山良平（修士課程芸術文化専攻2年）

ものづくり指向が強く工業高校から芸工大へ。金属の質感とジュエリーの華やかさに惹かれて金工を専攻した横山さん。作るほど、学ぶほどその魅力にはまり、必然的に大学院まで進みました。大学院の2年間ではジュエリーなどの小品を多く手掛け、目標のひとつでもあった二人展

も経験。広く一般の人の反応に触れることができ、良い勉強になったそうです。修了制作では得意とするジュエリーを離れ、「花卉をモチーフとしたオブジェ」を2～3点出品。山形生まれの山形育ち、修了後は、はじめて地元を離れ東京で大手ジュエリー会社の制作職に就き、社会勉強をし

ながら修業を積むことになります。「将来的にはアートジュエリー作家として成功した上で、創作拠点を山形に移せるぐらいの野心をもってがんばります、野心をもって。」と自らを鼓舞するように繰り返された言葉。修了制作への野心にも大いに期待したいところです。



左／卒展作品「力の造形」の完成模型と、実物の木工部分を手に思案する鈴木さん。右／キャノンとの産学共創プロジェクトに参加した際の作品。一眼レフカメラのデザインやバードカービングにも挑戦。

#### 「卒展なのに初めてづくしの挑戦。奥行き感のある造形にこだわりたい」

鈴木匠（プロダクトデザイン学科4年）

普段はパソコンに向かっていることが多いプロダクトデザイン学科の鈴木さんが、卒業制作に入って木工の実習室にすることが多くなりました。もう一度自分の力量を見直す機会と卒展を位置づけ、木工と鋳造に挑戦することにしたのです。3年次にキャノンとの産学共創プロジェクトで

一眼レフカメラのデザインを経験し、それがきっかけでSONYのプロダクトデザイン部門への就職を決めた彼が「卒業制作では、触れる、奥行き感のある造形にこだわりたい」と木とアルミの感触を確かめながらモノづくりに奮闘しています。作品テーマは「力の造形」。木工で骨組みを作り、

天板以外はアルミ鋳造を施し、椅子ともテーブルともいえるデザインに仕上げます。バウンドするボールの軌道と、その軌道に支えられる天板という力の相互関係をみせるのがポイント。彼がこだわり続けた力の造形に、ぜひ卒展会場で触れてみてください。

コンセプトは「COLOR OF TUAD」  
2008年度 卒業／修了研究・制作展



2008年度の卒業／修了研究・制作展は「COLOR OF TUAD」がコンセプト。3月の卒業を控えた約500名の学生が、多種多様なデザインの提案、アート作品の展示、研究活動の成果発表を、大学の敷地全体を使って一堂に行い、「東北芸術工科大学」を染めあげます。さらに、日本のアートを牽引する美術批評家やジャーナリストをゲストにお迎えしてのパネルディスカッションや、学科主催のトークイベントなども連日開催。卒業後の社会が、無限の可能性を秘めた白いキャンパスなら、卒展はパレットのような舞台。雪に覆われたキャンパスだからこそ際立つ、個性的な「色」をたくさん並べてお待ちしております。

「東北芸術工科大学 卒業／修了研究・制作展」  
会期：2月11日(水)～15日(日) (2月10日は内覧会)  
会場：大学キャンパス+悠創館  
お問い合わせ：大学広報室  
Tel.023-627-2246 public@aga.tuad.ac.jp  
〈開催記念パネルディスカッション〉  
講師：小山薫堂(放送作家、2009年度より企画構想学科教授)／後藤繁雄(編集者・アートディレクター)／酒井忠康(大学院教授)／宮島達男(副学長)  
日時：2月11日(水) 14:00～17:00  
会場：本館201講義室



2008年度 卒業／修了研究・制作展ウェブサイト  
WEB: <http://www.tuad.ac.jp/sotsuten/>

## OPEN GALLERY

## EVENT SCHEDULE WEB

## 1/8-20

描くことをこんなに楽しんでいます

谷善徳美術科教授が主宰するチュートリアル写生研究会の作品展「素描展」を開催。平面作品約100点を展示します。

「チュートリアル写生研究会素描展」

会期：1月8日(木)～20日(火) 9:00～17:00(最終日13:00まで)

会場：芸術研究棟 A

出品：城下垂弓／綱澤菜穂／渡辺綾／村形夏海／永井里枝／森山育恵／江藤靖子／三ツ井さやか／堀口愛緑／小沢ちえ子／杉山幸穂／有田真季／原井洋徳／渡邊静香／永澤秋沙／加藤有希子／末永彩／日向かほり／横山結花／足立香織／植木瑠美子／山口裕子／宮田麻梨子／塚本みちの／足立祐三子／永縄美沙／佐藤あゆみ／八木沢千歳／加藤優子(所属、学年略)

## 1/18-25

観られる勉強、瑞々しい作品に触れる

美術科工芸コースの2年生、約40名による課題作品展「始発展」を開催します。

「工芸2年課題展「始発展」

会期：1月18日(日)～25日(日) 9:00～17:00(月曜休館)

会場：悠創館

公開講評会：1月22日(木) 14:00～

## 1/19-31

伝統生まれ山形育ちの新アート

工芸や日本画の伝統的な技法、山形の風土と混ざり合いながら生成させた、アートにおける新しい生態系を陳列します。東京と山形、自然と人工、これらの差異を縫合するかのようになされた作品を是非ご覧ください。

「I'm here. 2008 vol.3 | 東京展「森の発生／森の腐敗」中田朝乃＋土ヶ端大介＋古川紗帆」

会期：1月19日(月)～31日(土)

会場：表参道画廊

〈レセプションパーティー&amp;スペシャルトーク〉

日時：1月24日(土) 18:00～20:00

## 1/20-30

棚田の村で撮影された閉校への序奏

佐渡在住の写真家・梶井照陰氏が、東北芸術工科大学のアーティスト・イン・レジデンスに参加。2008年夏から秋にかけて山形県大蔵村の四ヶ村に滞在し、この3月に閉校を迎える学校の最後の年中行事を軸に、村の祭礼や古老たちの生活を撮影しました。本展では、梶井照陰氏が四ヶ村で撮影した70余枚の写真を展示します。

「TUAD Artist in Residence Program 2008 梶井照陰 | 四ヶ村」

会期：1月20日(火)～30日(金) 9:00～20:30(土曜17:00まで、日曜休館)

会場：図書館ガレリアノルド



## 1/23-2/5

学科科目だけで受験できます

「大学入試センター試験利用入学試験(2科目利用前期)」

出願期間：1月23日(金)～2月5日(木) 個別試験無し  
※詳しくは募集要項をご確認ください。

## 1/26-30

北と南の芸術交流、新たな始まりの予感

本学と九州大学の大学院生による展覧会を、山形市(悠創館)と福岡市(ルネット)で開催。本学からは、ビジュアルコミュニケーションデザインと実験芸術の大学院生12名が、モニター上映や平面展示、インタラクティブ作品などを出品します。

「東北芸術工科大学と九州大学大学院生の交流展示」

会期：1月26日(月)～30日(金)

会場：九州大学ルネット USI(福岡市南区大橋)

## 1/26-31

東京と福岡での新たな一歩

福岡で活動している洋画コース卒業生の南健吾さんが、銀座で個展を開催します。

会期：1月26日(月)～31日(土)

会場：gallery-58(東京都中央区銀座)

## 1/28-29

大志を抱いてトピラを開こう

「一般入学試験(前期)／大学入試センター試験利用入学試験(1科目利用)」

試験日：1月28日(水)～29日(木)

会場：山形／仙台／東京／札幌

※詳しくは募集要項をご確認ください。

## 1/31

本学で甦った黒い聖母のなぞに迫る

鶴岡カトリック教会の「黒い聖母」は、本学の文化財保存修復研究センターで修復が施され(2006～2008年4月)、万全の状態に鶴岡に戻されました。フランス中世以来の「黒い聖母」の伝統と歴史を検証し、修復の意図と行程を振り返って、鶴岡の「黒い聖母」の来歴と魅力を明らかにします。

「鶴岡カトリック教会の黒い聖母をめぐる」

日時：1月31日(土) 13:00～17:00(終了予定)

会場：本館2階208講義室

講演：安藤和彰准教授／藤原徹教授

聴講料：無料

## 2/2, 6, 19

企業と学生を結び、就活を強力サポート

在学3年生対象に「企業合同就職説明会」を開催。東京会場と仙台会場へは大学よりバスを運行します。

「本学主催企業合同就職説明会」

〈山形会場〉

日時：2月2日(月) 13:30～16:30

会場：大学本館

〈東京会場〉

日時：2月6日(金) 14:00～17:00

会場：東京サテライトキャンパス

〈仙台会場〉

日時：2月19日(木) 12:30～15:30

会場：仙台アエル5F ネットU

## 2/4

テキストイルのこと、考えてみませんか?!

テキストイルコース主催で、「紅花」を通じてテキストイルと山形の未来を考えるシンポジウムとワークショップを開催します。

「紅花ルネサンス vol.1 山形→未来」

日時：2月4日(水)

ワークショップ：本学グラウンド(9:00～12:00)

シンポジウム：こども芸術大学こども劇場(13:00～16:00)

企画：美術科テキストイルコース 辻い教授／山崎和樹准教授

講演：吉岡幸雄(染織研究者)／山岸幸一(染織家)／石山信哉／遠藤みよ(産地直売所たかせ)／大内理加(県議会議員・県紅花生産組合連合会顧問)／赤坂憲雄(大学院長)

## 2/7

ここから始まる何かを実感しよう!

オープンキャンパスでは、仙台スクール(大学院修士課程)が育成する人材像の説明と、各領域の現状に関するミニレクチャー・個別相談を行います。コンテンツ産業やビジネスの世界の扉を拓く絶好のチャンスです。

「大学院仙台スクール オープンキャンパス」

日時：2月7日(土) 14:30～16:30

会場：大学院仙台スクール

## 2/7

本は文化、本づくりに興味のある方に

本や雑誌はどうやって作られるのか、雑誌、書籍の編集者をはじめ、写真家、翻訳家など出版業界で活躍するゲストをお招きし、本づくりの「今」をお話しいたします。

「東北ルネサンスプロジェクト 編集者講座」

〈世界を伝える〉

講師：古賀義章(講談社クーリエジャポン編集長)

日時：2月7日(土) 17:00～

会場：仙台文学館講習室

受講料：一般1,500円

## 2/11-15

それぞれの学びの集大成が胸を打つ

「東北芸術工科大学 卒業・修了研究／制作展」

会期：2月11日(水)～15日(日)(2月10日は内覧会)

会場：大学キャンパス+悠創館

※詳しくは裏面をご覧ください。



## 2/14, 3/21

文学という芸術も、やがて開花する

山形市在住の文芸評論家 池上冬樹氏がコーディネートする文章講座。文学に興味のある方のご参加をお待ちしております。

「東北ルネサンスプロジェクト 小説家・ライター講座」

会場：仙台文学館講習室

受講料：一般1,500円

〈私小説の「プラットフォーム」〉

日時：2月14日(土) 17:00～

講師：佐伯一麦(三島賞・野間賞作家)

〈新人を発掘して育てる過程〉

日時：3月21日(土) 17:00～

講師：白幡光明(文藝春秋文芸局長)



## 2/19-3/4

センター試験の結果を活かそう!

「大学入試センター試験利用入学試験(2科目利用後期)」

出願期間：2月19日(木)～3月4日(水) 個別試験無し

※詳しくは募集要項をご確認ください。

## 2/23-24

若き好奇心と向学心に門戸を開く

「一般入学試験(後期)」

試験日：2月23日(月)～24日(火)

会場：山形／東京

※詳しくは募集要項をご確認ください。

## 3/7

イザベラバードから見えてくる東北

ゲスト講師と赤坂憲雄大学院長が対話をしながら、東北の大地に息づく「知の系譜」を紐解いていきます。

「東北ルネサンスプロジェクト 赤坂憲雄対論「東北・知の系譜」

〈イザベラバードを語る〉

講師：高橋克彦(作家)

日時：3月7日(土) 17:00～

会場：仙台文学館講習室

受講料：一般1,500円

## 3/22

たくさんの思い出と成果を胸に

「2008年度 東北芸術工科大学 卒業・修了式」

日時：3月22日(日) 10:30～12:00

会場：体育館



## 4/5

初々しい笑顔と感性が丘を登る

「2009年度 東北芸術工科大学入学式」

日時：4月5日(日) 10:30～12:00

会場：体育館



※企画によっては、日程や開催時間に変更になる場合があります。ご了承ください。

「あなたの作品、寸評室」出品者募集!

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしく的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日中に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。

FAX:023-627-2185

E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp

※ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。